

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 22日

事業所名 こどもプラス豊見城教室別館(単位 I)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	・活動スペースには柵やプレイマットで仕切り、体を動かす場所・静かに遊ぶ場所など区別し活動している。	
	2	職員の配置数は適切である	4	3	・様々な職種の職員を配置している。	・送迎時や職員の休憩などの時間帯には工夫してなるべく手厚く対応出来るようにしていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	1	・怪我や飛び出し防止のため、角にクッション材を取り付けたり、活動スペースから玄関までにベビーガードを二重に設置している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	1	・体をたくさん動かせるように広く活動スペースがあり、定期的に室内の換気やおもちゃ等の消毒をおこなっている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	・日々の朝礼や終礼、月ごとの業務ミーティングを行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	・毎年取り組んでいる。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2	・毎年取り組み、ホームページにて公表している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	1		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	・こどもプラスホールディングス本部からのオンライン研修が毎月あり、また見逃し配信でいつでも研修を受ける機会がある。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	・利用者のニーズを細かく聞き取り、計画に取り入れている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	・契約時には子どもの状況や環境変化ごとに聞き取りを行い、アセスメントシートを記入している。	・個別支援計画更新時には子供の様子を観察し、アセスメントシートの更新を行っていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	・保護者や相談員からの聞き取り、子どもの様子を観察しながら、職員で支援内容を話し合っている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	・職員同士でケース会議を行い、支援方法を共有、実行している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	・大まかな内容を全体で決めたのち、担当を決めて取り組んでいる。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	・その日の利用者に合わせて、好きな活動や少し苦手な活動に挑戦してみるなど工夫している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0	・集団で行う運動遊び、机上で訓練する個別活動など利用者に合わせて支援内容に組み込んでいる。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	・朝礼や終礼などで共有し、全体共有が必要な場合はメモを残し共有ファイルを活用している。 ・事前に役割分担を決め支援内容を決定している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2	・終礼でその日の様子を振り返り、気になる所は共有メモ(ノート)に残している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	・日々の支援後に記録を入力している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	・定期的に行い、支援の見直しの必要性を判断している。	
	関係機関や保	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	・管理者や児童発達支援管理責任者が参加しており、必要であれば専門職や訪問担当職員が参加している。
22		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	3	・必要な児童は行っている。	
23		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	7	・該当児がいない。	・該当する児童が利用する際には連携を図っていきたい。
24		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	7	・該当児がいない。	・該当する児童が利用する際には連絡体系を整えていきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者との連携関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	・保護者からの依頼があれば速やかに対応し、関係機関と情報共有を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	・保護者からの依頼があれば速やかに対応し、関係機関と情報共有を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	5	・必要な児童が居れば行っている。また研修については希望者が受講している。	・研修を受講した職員より、他の職員への伝達報告を行う様になっている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	4	・外出先のイベントや公園などで地域の子ども達と関わる事もある。	・大きな交流会などは開催するに至っていないので、今後計画を立て実行していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	0	7		取締役が自立支援協議会全体会の委員として参加している。豊見城市にこども部会がないが、別部会などに参加する機会があればぜひ参加したいと考えている。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	・オフィシャルLINEや送迎時に申し送りをし、子どもの状況を職員全体で共有している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	2	・家族支援として相談や助言は行っている。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1	・契約時や必要に応じて全利用者に説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	・ニーズに合わせた支援内容を作成し、説明後に同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	・相談があった際には適切に応じ、必要であれば時間を調整し面談などを行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	7		・開催するに至っていないので、今後開催時期を考えながら計画していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	・管理者を通して迅速に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	・毎週、週ごとの活動をお知らせしている。 ・毎月おたよりを作成し、オフィシャルLINEにて配信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	・個人情報の保管場所や写真の取り扱いなど、常に意識し扱い方について全職員で注意している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	・情報伝達が難しいご家庭は配慮し、関係機関へ連絡したり、いつでも支援できる体制を整えている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4	・近隣の事業所とハロウィンなどのイベントで交流があった。	・イベントごとでは近隣の事業所やお店へ訪問することはあるが、こちらが招待するイベントを開催出来ていないので、今後計画し行っていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	1	・研修を行ったり、年に2回の訓練(災害・不審者など)を行っている。また訓練を行った際には、その日の活動の様子やブログにて様子をお知らせしている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	・年に2回訓練を行っている。また非常時に備え役割分担を決めて意識している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0	・対象児が居る際には、利用開始前や保護者からの申し送りがあった際に全職員で共有している。	・与薬依頼書へ記入してもらうことで書面にて確認している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	2	・食事やおやつを場所をわけするなど、必要に応じて対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	・事例集を作成し、全職員で共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	・動画研修や事例検討会などを行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	1		・現在は該当児がいないため、やむを得ず身体拘束を行う場合には保護者の了解を得たうえで支援計画書を作成していきたい。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。